

はくちょう座

夏の夜空、天の川に大きな翼を広げる「はくちょう座」は、その十字の並びから「北十字星」とも呼ばれる、プロトマイオスが定めた48の星座の一つです。ギリシャ神話では、大神ゼウスがスパルタの王妃レダに恋をし、姿を変えて会いに行った白鳥の物語が今に伝えられています。

また、この星座は宮沢賢治の童話『銀河鉄道の夜』の舞台としても有名です。作中では「白鳥の停車場」が登場し、ジョバンニたちは車

窓からサファイアとトパーズのように美しくきらめくアルビレオの姿を眺めます。同時にそこは、天の川の流れの速さを測定する「アルビレオの観測所」としても描かれています。

白鳥の尾にあたる一等星「デネブ」は、夏の大三角を形成する星の一つです。地球からの距離は約1,400光年と、他の二つの星（ベガ約25光年、アルタイル約17光年）に比べて極めて遠方に位置しています。それにもかかわらず夜空で明るく輝いているのは、太陽の約20倍の重さをもつ超巨星で、表面温度は約10,000℃に達しているためです。

白鳥のくちばしに位置する「アルビレオ」は、全天で最も美しい二重星の一つです。望遠鏡で見ると、オレンジ色に見える三等星と、エメラルド色に見える五等星が寄り添う姿を観測できます。

街明かりの中でも、デネブを中心とした十字の形は比較的容易に見つけることができます。天の川に浮かぶ白鳥の姿を、物語に描かれた世界や星のデータと共に楽しんでみてください。

参考図書：全天星座百科（藤井旭著 / 河出書房新社）

今月の見どころ星どころ

夏に輝く「天の川」の正体

文・浜松市天文台
村松 大河



街明かりが少ない暗い場所へ行くと、夜空を縦断するように流れる淡い光の帯が見えることがあります。それが、「天の川」です。実は、天の川は夏だけのものと思われがちですが、一年中いつでも日本の夜空に存在しています。今月は、この天の川がなぜ「夏の風物詩」としてひとときを輝いて見えるのか、その理由を探ってみましょう。

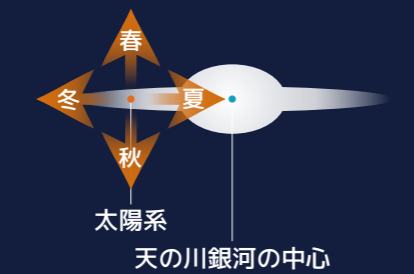
その秘密は、私たちがいる太陽系と「銀河系（天の川銀河）」の位置関係にあります。銀河系は数千億個もの星々が円盤状に集まった巨大な集団ですが、夏の間、地球の夜側は星が最も激しく密集している「銀河の中心方向（いて座の方向）」を向きます。そのため、1年の中で最も濃い天の川を観察することができるのです。

逆に、冬は星の少ない銀河の外側を向くため、光が淡く見えにくくなります。

ただ光の帯を眺めるだけでなく、自分が巨大な星の円盤の中に立ち、その最も濃い中心部を見つめているのだと意識してみてください。夏の澄んだ夜、私たちが住む太陽系を包む銀河の立体的な構造を、ぜひ夜空に感じ取ってみませんか。

参考図書：星のきほん（駒井仁南子著 / 誠文堂新光社）

円盤に沿った方向から見た天の川銀河



参考：国立天文台 天文情報センター

星空クイズ

夏の星座「さそり座」の一等星「アンタレス」付近は、写真を撮ると、赤、青、黄色など色鮮やかな星雲が写ります。このことから、「アンタレス」付近は、何と呼ばれるのでしょうか？

- A レインボータウン
- B カラフルタウン
- C パープルタウン

答えは中面へ

星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

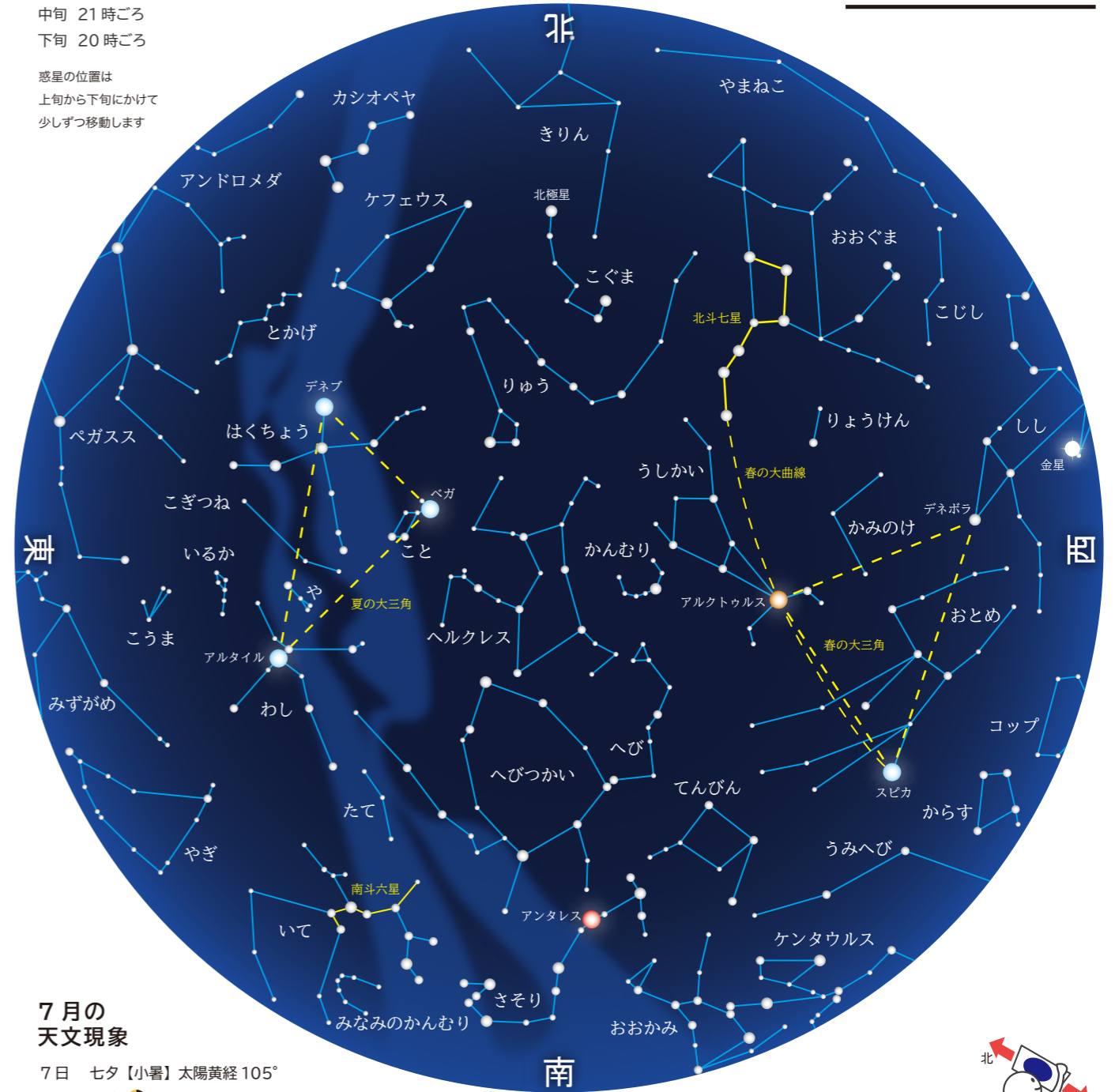
2026年7月

上旬 22時ごろ

中旬 21時ごろ

下旬 20時ごろ

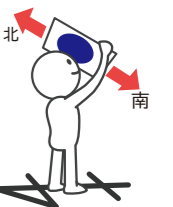
惑星の位置は
上旬から下旬にかけて
少しずつ移動します



7月の天文現象

- 7日 セタ【小暑】太陽黄経 105°
- 8日 下弦 ☾
- 14日 新月 ☽
- 21日 上弦 ☽
- 23日【大暑】太陽黄経 120°
- 29日 満月 ☽

上の星図は、空にかざして
実際の方角と合わせてご覧ください。



いよいよ夏本番！浜松も暑くなってきましたね。7月の和名「文月」は、短冊に願いを書いたことが由来と言われています。夜空を見上げれば、天の川を挟んで織姫星のベガと彦星のアルタイルがまばゆく輝き、絶好の天の川シーズンが始まります。心地よい夜風を感じながら、賑やかな夏の夜空をのんびり眺めてみませんか？





浜松市天文台

OK 天候不良開催 NG 天候不良中止

ウェブサイトはこちら



イベント情報

天文台ウェブサイトよりお申込みください。

7/4・11・18・25

星空観望会 宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望します。

時間 19:30～21:00 会場 天文台屋上
申し込み 開催日3日前の水曜 13時から受付 (30分ごとと先着20組)



7/5 太陽・昼間の星 観望会

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や、昼間に見える天体を観望します。

時間 14:00～16:00 会場 天文台屋上
申し込み 予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。

7/19 メシエウォーキング～電子観望で星雲・星団をめぐる～

高感度ビデオカメラ (CMOS) を使って星雲や星団の電観望を楽しみましょう。天体のデータをおみやげに、プレゼントします。

時間 19:00～21:00 会場 天文台屋上
申し込み 7/8(水) 13時から受付 (先着10組)

7/25 天文講座「広がる宇宙へはじめての一步」

天体の動きや宇宙の歴史を基本から、優しく解説します。まずはここから学び始めましょう。

時間 15:00～16:30 会場 2F 講座室
申し込み 7/8(水) 13時から受付 (先着15組) 対象 小学生以上

7/31 8/13 望遠鏡を作ろう

望遠鏡キットを使って、自分の望遠鏡を作り、月や星などを観望してみよう。

時間 両日とも 19:00～21:00 会場 2F 講座室 / 天文台屋上
対象 小学生親子 材料費 3,300円
申し込み 7/22(水) 13時から受付 (両日とも1時間ごとと先着7組)

8/1 めざせ! 望遠鏡マスターコース

基本の操作技術を習得できます。星空観望会でも練習を重ねて、自分の力で星を見つけましょう。

時間 18:30～19:30 会場 2F 講座室
申し込み 7/29(水) 13時から受付 (先着6人) 対象 小中学生

8/7・14 親子天文教室

小学生親子向けのお話と観望がセットになっています。雨天でも、工作をして楽しむことができます。(園児のきょうだいも参加可)

時間 19:00～20:30 会場 1F ホール / 天文台屋上
申し込み 7/22(水) 13時から受付 (両日とも先着20組)

8/2 「光の科学」スペクトル講座

分光器を作って「光」を知る講座です。「太陽・昼間の星観望会」も同時に開催しています。

時間 13:00～14:30 会場 2F 講座室 / 天文台屋上
申し込み 7/22(水) 13時から受付 (先着10組) 対象 小学5年生以上

8/9 星と景色の写真講座～一眼レフの撮り方教室～

三脚と一眼レフカメラで、星の写った風景写真を撮影するための入門講座です。設定から、丁寧に解説します。

時間 19:00～21:30 会場 2F 講座室 / 天文台屋上
申し込み 7/29(水) 13時から受付 (先着6組)

裏面のクイズの答え：正解は、B (さそり座の「アンタレス」付近は色鮮やかで、「カラフルタウン」という愛称で親しまれています。)

星空を楽しむ

星空に、手が届く町

文・浜松市天文台事業協力者の会 久保敷由加里

山に囲まれ、町の明かりが少ない浜松の最北端の水窪では、季節ごとにさまざまな星空を楽しむことができます。水窪の夜空は、手を伸ばせば星を掴めるような、そのくらい満天の星空が楽しめます。特に7月頃からは、天の川がはっきりと見える季節になります。庭で横になりながら、空いっぱい広がる星々を眺めると、日常を忘れてしまうような感覚になります。

そんな水窪にも、実は天文台があります！

水窪天文台では、月に一度、星空観望会を開催しており、大型望遠鏡を使って月や惑星、季節の星々を観察することができます。今後、水窪だからこそ、きれいに見える星雲や星団もご案内できるように、準備中です。子どもから大人まで、どなたでも参加でき、遠方からも来られるお客様もいらっしゃいます。(夜の道中は野生動物にも出会えることも！運転にはご注意ください。)

ぜひ山間部の美しい星空を見に遊びにいらしてください。



浜松科学館

プラネタリウム番組情報

解説員がライブ解説する「プラネタリウム」をお楽しみいただけます。

※市政記念日：7/1、夏季：7/18～8/31

ブログはこちら



プラネタリウム



七夕の星と物語

～さあ行こう! 天の川の向こうへ～

平日 14:20～15:15
土日祝・7/1 13:00～13:55
15:40～16:35



彗星と行く! 太陽系一周ツアー!

今年の夏はプラネタリウムで太陽系一周ツアー!

平日 14:20～15:15
夏季 13:00～13:55
15:40～16:35

プラネタリウム



星空マルシェ

平日 15:40～16:20
土日祝・7/1 10:30～11:10



星空マルシェ～サマースペシャル～

夏季 10:30～11:10

キッズプラネタリウム



さんやのおひしきま

土日祝・7/1・夏季 11:30～12:05
14:20～14:55

夜の科学館 特別放映



夏うた プラネタリウム

7/25(土) 18:20～19:00
19:20～20:00

次はいつ会える? 太陽系の旅人さん

column

文 / 浜松科学館 天文チーム 岩本歩夢



このマークを知っていますか? これは浜松科学館が2019年にリニューアルする前に使っていたマークです。マークに描かれているのは、科学館が開館した1986年に地球に接近していた「ハレー彗星」です。エドモンド・ハレーという天文学者が詳しく研究した彗星なので、彼の名前がついています。40年前、実際にハレー彗星を見た方もいらっしゃるのではないのでしょうか。残念ながら見逃してしまった方、まだ生まれていなかった方、安心してください。ハレー彗星はまた戻ってきます。同じ場所に戻ってくるまでにかかる時間のことを周期といいます。ハレー彗星の周期は約76年です*。次にハレー彗星が地球に近づくのは2061年の夏ごろです。彗星の中には数十万年、数百万年かけて同じ場所に戻ってくるものや、なんと二度と同じ場所に戻ってこない彗星もあります。そう考えるとハレー彗星が戻ってくるまでの35年間もあつという間な気がしてきませんか?

彗星はどこからやってくるのでしょうか? 彗星の起源として有力な場所が2つあります。一つは、海王星の軌道よりもさらに遠いところにある「エッジワース・カイパーベルト」。穴の開いた円盤状に小さな天体が散らばっている場所です。もう一つは、さらに遠くで太陽系を取り囲むようなカプセル状に小さな天体が散らばっていると考えられている「オールトの雲」という領域です。ここでいう「小さな天体」とは主に氷でできていて、わずかに岩石質のちり(小石や砂粒のようなもの)を含んだ、「氷とちりのかたまり」です。エッジワース・カイパーベルトやオールトの雲にあった小さな氷とちりのかたまりが、太陽・惑星の引力に引き寄せられ、太陽系の中心近くで落ちてきます。そして、太陽の光を受けて氷が溶けだし、ちりやガスを噴き出し長い尾やコマを作り、彗星になっていると考えられています。

彗星は、太陽系の遠いところから太陽の近くまで旅をするように移動することから、「太陽系の旅人」と呼ばれることがあります。そんな太陽系の旅人と一緒に惑星を見て回ったら、どんな気分なのでしょうか? プラネタリウムでは1986年にやってきたハレー彗星と一緒に太陽系を一周するプラネタリウム「彗星と行く! 太陽系一周ツアー」を放映します。宇宙から見た太陽系の姿をぜひご覧ください!

*NASA/JPL(ジェット推進研究所)「small-body database」を参照。周期は変化することがあります。

参考: 国立天文台「彗星」 <https://www.nao.ac.jp/astro/basic/comet.html>



参考: 国立天文台「彗星」

